

JA兵庫六甲の  
自己改革

平成30年度 ダイジェスト

農と食の未来を描く

～「その一歩」をサポート JA兵庫六甲にできること～



JA兵庫六甲

〒651-1313  
兵庫県神戸市北区有野中町2-12-13  
TEL: 078-981-6550  
URL: <https://www.jarokko.or.jp/>  
E-mail: [info@jarokko.or.jp](mailto:info@jarokko.or.jp)

発行: 兵庫六甲農業協同組合  
企画管理本部(広報)

# かけがえのない農地を護ることが 未来の子どもたちの 食の安全を守ることにつながります

農地は、ひとたび荒廃すると、その機能を復活させるまでに長い時間と労力が必要となります。安全・安心でおいしい食べものは、きれいな水と空気、そして、護り続けてきた土があってこそ育まれるものです。

農地を護り、環境を守り、地域農業を次世代につなぐことが、今を生きる私たちに課せられた使命です。

未来の子どもたちへの責任を果たすため、JA兵庫六甲は、生産者の皆さんの新たな挑戦、地域農業の担い手づくり・かけがえのない農地の保全など、さまざまなことに全力で取り組んでいます。



## JA兵庫六甲 平成30年度 ダイジェスト

目次

攻める.....3

護る.....5

繋ぐ.....7

数字で見る  
平成30年度の  
取り組み.....10



# 攻める 生産者の挑戦を バックアップ

「もっとたくさんの農産物をもっとたくさんの人に届けたい」と挑戦する生産者や「もっと食べてもらう喜びを感じたい」と就農を目指す若者。JA兵庫六甲には、そんな挑戦者をバックアップする仕組みがあります。

## 都市部進出の拠点 ファーマーズマーケット マチマルシェ御影

通学で産所を利用できなかった大勢の人たちに「地元産の農産物を届け、都市部に暮らす人々にも田舎を身近に感じてもらう」を目標に御影に努めています。また、神戸市東灘区の立地を活かし、阪神間で事業を行う企業・ホテル・個人経営のレストランなどさまざまな取引先を拡大しています。



## 機械による作業の省力化で 栽培をバックアップ

出荷作業に多くの時間と労力が必要とするコマツナやイチジク。これらの作業を機械化することで、生産拡大をサポートします。

### コマツナ栽培 Aさん

パックセンターの利用で  
ハウス回転数▶5.4回/年→5.8回/年



### イチジク栽培

イチジクの撰果場利用実績▶  
前年対比 **103%拡大** (2018年度)



▲2018年度 神戸市学校給食用イチジクジャムを開発

### 取引先 企業・組織

## 12組織

(2019年3月末現在)

GRAND・FOOD・HALL! 芦屋  
蔵の料亭さかばやし  
Bistrante BOQU  
Eng GRILL MEAT STAND  
鉄板dining月や  
収穫祭 三宮店  
丘の上のピアレ스토랑  
Katsuki銀座本店  
ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド  
西村屋 和奈  
樹っ子亭  
神戸市長田区丸山博人会

約1.6倍に  
成長



## 総合事業体の有利性を活かした 資金面のサポート

総合事業体であるJA兵庫六甲は、農業経営を栽培面だけではなく、資金面からもサポートします。JA/バンクや行政との連携を密に、個々の営農に合わせた提案を行います。

### JAバンク事業

●肥料や苗など農業資材購入をサポート  
2017~  
2018年度 **216件 59,000,000円**

### 農業施設貸与事業

●ハウスや装置など農業施設設置をサポート  
2018年度 **48件 108,775,000円**

## JA兵庫六甲の 農地保全メニュー

高齢化や家族構成の変化などによって、農業を続けたくても続け難い状況になったとしても、かけがえのない農地を保全してあげるよう、JA兵庫六甲がサポートします。

### 1 農作業の一部を手伝ってもら

〈例えば…〉  
ヘリコプターが防除作業をお手伝いします。  
■実施面積(2018年度)……………929.92ha

〈例えば…〉  
ジェイエイファーム六甲がお手伝いします。  
■あぜ塗り作業(2018年度)……………927.5a



### 2 地域内で助け合える 仕組みを構築する

一部の作業を手伝ってもらっただけでは維持ができなくなった場合には、集落全体で農地を管理する仕組みづくりをサポートします。

■集落営農組織(2018年3月末)……………94組織

### 3 農地を貸し出す

ジェイエイファーム六甲と連携して市民農園の運営支援を行います。

■市民農園数……………6か所 164区画  
■市民農園整備促進法適用農園数……………1か所 440区画



### 学校給食で子どもたちの食を守る

兵庫県では、学校給食を実施する全ての学校で県内産米が使用されています。

JA兵庫六甲は、調理室からの要望を生産者に伝え、生産者が大切につくった野菜や米をまとめて給食室に届ける橋渡しを行っています。

兵庫県の  
学校給食地産産物の  
活用状況

調査期間:平成27年  
6/15-19,11/16-20  
兵庫県営農委員会  
[学校給食の現状 平成28年度]  
より引用



### 神戸市では…

2019年3月27日に、神戸西営農総合センターが調理士・栄養教諭を対象に学校給食野菜産地見学会・意見交換会を開催しました。

給食を調理する側  
(調理士・栄養教諭)

相互理解

野菜を供給する側  
(生産者)

神戸市小学校給食  
神戸産野菜利用実績  
神戸産野菜の使用量(t)

78.8t

2001年度

241.8t

2017年度



JA兵庫六甲が架け橋となり  
地域を超えた絆を結ぶ

### 高平広域集落営農

個々の農家では難しかったことも、地域を超えて絆を深め規模を拡大したことでたくさんの新たな夢を描くことにつながります。

三田市の高平地域では、複数の集落が手を取り合って広域集落営農を組織、新たな挑戦を始めています。

水稻 ■業務用米……………某大手寿司チェーンへ販売  
■高付加価値米……………特別栽培米「奥三田」の生産・販売を実現  
■鉄コーティング直播栽培を採用することで労力を軽減  
野菜 ■黒大豆枝豆オーナー制度(2018年度実績)  
……………380組/411人/栽培面積1ha



農林水産省の報告によると、2007年から2016年までの10年間で、自然災害が原因となり、全国で200362haの農地面積が縮小しました。今年の渾身として「災」が選ばれた2018年。  
農業にとっての脅威である台風や大雨など自然災害発生時、JA兵庫六甲では迅速に緊急体制を敷いて、対策情報の発信や、事後対策の支援を行いました。

災  
危機を  
乗り越える  
サポート

■慶弔見舞金(2018年度)……………4,000,000円  
■伊丹地域農業応援隊の設立をサポート(2018年4月)



護  
地域に寄り添い  
共に課題に取り組み

地域や集落が抱える課題は千差万別。対話の中でJA兵庫六甲にできることを見出し、柔軟に迅速に丁寧に対応します。かけがえのない農地を護り、地域農業の安定的な継続を全力でサポートします。

## 地域農業の担い手 サポートメニュー

独立を目指す新規就農者や規模拡大したい生産者に、農業研修の場を提供。

地域農業の未来を担う皆さんをサポートします。

### 1 最先端の水耕栽培技術を学ぶ



最先端園芸施設ゆめファーム兵庫六甲での栽培実技研修を通して、高収量・高品質の栽培技術を習得します。

### 2 大規模の露地栽培を学ぶ



ジェイエファーム六甲では、地域の未利用農地などを活用し、土づくりから水管理、出荷まで、露地栽培を学びます。

### 3 農業の経営スキルを学ぶ



高度環境制御栽培施設ゆめファーム兵庫六甲はげたには、2~3年の長期の研修プログラムによって、市場の動向や消費者ニーズに触れ、高度な経営感覚を身につけます。



## 地域農業の次世代リーダーを輩出

農業経営スキル習得の場として、**ゆめファーム兵庫六甲はげたにが2018年4月に始動しました。**

研修生は最先端施設の1画を任せられ、自身の采配で農業経営を行います。

自ら30aの圃場をどう活かし、何人雇い入れ、どうやって売り込むか、日々試行錯誤を行います。

独立後、農業ビジネスが成功するまでをJA兵庫六甲がサポートします。



## 安定した農業経営を

生産に必要な主要銘柄について定期的な市場調査を行って低価格化の実現に努めています。

2018年9月には、地域内のホームセンターなど**15店舗**について価格調査を行いました。

低価格化の実例 (2018年9月現在)

	高度化成オール14 20kg	ジェイエース3kg (オルトラン)
JA兵庫六甲	1,280円	1,750円
	↑	↑
量販店(平均)	1,434円	2,293円



収穫後100本の黒大豆枝豆を2名で調製する場合

	これまで	ビーンセンター利用
サヤ取り	100分	20分
選別	45分	35分
袋詰め	140分	45分
合計所要時間	285分	100分 (1/3 時間に短縮!)

**栽培面積拡大の布石  
三田ビーンセンター**  
三田市特産黒大豆枝豆の産地拡大には、出荷調製作業にかかる労力の削減が必須課題でした。そこで、枝豆機械共同利用施設「三田ビーンセンター」を2018年10月5日に開設しました。

## JA兵庫六甲 三田地域青壮年部の活動をサポート

- 「大学生と親子で農業体験in三田」開催……………15組45名が参加
- 「三田バル」での黒大豆枝豆の販売高……………19万6,600円

# 繋ぐ 重要性を広め 未来に繋ぐ

地域農業を守るためには、栽培の支援は不可欠。生産者・消費者のお互いの思いを共有する場所の創出や、新たな担い手づくりなど、さまざまな施策が必要です。

営農経済活動

	2017年度実績	2018年度実績	2021年度目標
販売高(米・青果・花卉・肉牛)	153億円	147億円	180億円
販売高3000万円農家数	14戸	21戸	44戸
【米】直接販売率(うるち、もち米)	88.2%	88.7%	98.0%
【青果物】直接販売率	68.8%	73.6%	70.0%
販売所来店者数	2,328千人	2,215千人	2,844千人
販売所出荷者数	2,781人	2,756人	2,940人
集落営農とりくみ集落数	110集落	113集落	160集落
水稲生産コスト削減率	実施中	実施中	△15%

資産管理活動

	2017年度実績	2018年度実績	2021年度目標
農地に関する相談(貸農園・農作業受託取次等)	47件	57件	24件
農地法・生産者地法等に関する研修会	47回	43回	8回
相続シミュレーション作成件数	263件	270件	200件
賃貸住宅入居率	91.8%	93.2%	90%以上
記録代行サービス契約件数	592件	618件	650件
資産管理購買取扱高	47億円	38億円	40億円
(うちリフォーム取扱高)	16億円	17億円	17億円

生活文化活動

	2017年度実績	2018年度実績	2021年度目標
支店マルシェ等農業イベントの開催拠点数	43支店	47支店	56支店
農業教育活動	461回	348回	300回
農業向け融資の取扱	92件	(農粉)211件	5年間で500件
農業金融プランナー資格保有者	90人	(農粉)101人	5年間で150人
貸出金残高(地方公共団体向けを除く)	3,350億円	3,472億円	3,362億円
資産管理相談活動を通じた各種ローン取扱数	38件	42件	100件
貯金残高(地方公共団体向けを除く)	1兆2,888億円	1兆3,037億円	1兆3,759億円
共済契約者数	95,895人	96,560人	100,000人

新たな挑戦

JA兵庫六甲が全力で取り組むこと

将来に亘って 都市と農村、消費者と生産者を結んで  
 かけがえのない農地と農業を守り 地産地消の仲間を増やし、  
 競争力ある生産地を創造すること マーケットを広げ続けること

未来の子どもたちにも、安全・安心でおいしい食べものが  
 供給され続けるよう、全力で組合員の営農とくらしをサポートします。



生産者と消費者を結ぶ  
 交流拠点のステップアップ

農産物や料理を販売するだけではなく、  
 「生産者と消費者が思いを共有し、  
 互いに理解を深める場所」がJAの直売所キッチンです。

全ての大型直売所でSNSをスタート!!

その日おすすめの野菜や生産者の紹介、試食会・対面販売などのイベント情報を  
 写真と共にタイムリーに発信します。



地域の食の安全を守るために

マルシェ実施回数	267回
新規インショップ取り組み 新規提案件数	40回
支店での農産物販売	215回